

# 若越郷土研究

25 / 5

## 越前国における

地西国じさいこく

(一)

小谷 正典

### 一、はじめに

最近、年配の人はもとより若者の間にも西国や四国の寺々を巡拝して、納経帳や掛軸等に寺印を押して貰うことが静かなブームとなっているようである。言うまでもなく、西国とは、観音信仰に基づく西国三十三所観音霊場のことであり四国とは弘法大師信仰に基づく四国八十八ヶ所霊場を示している。本稿における西国とは、近畿地方を中心として二府五県に散在している西国三十三所観音霊場

を模して、各地につくられている地方霊場のことである。<sup>①</sup>

### 二、西国三十三所観音霊場について

西国三十三所観音霊場（以後は、西国三十三所霊場と記す）については、すでに、新城常三氏の『社寺参詣の社会経済史的研究』（塙書房）をはじめとして、速水侑氏の『観音信仰』（塙書房）、前田卓氏の『巡礼の社会学』（関西大学経済政治研究所）等の詳細な研究がある。それらによると、西国三十三所霊場の成立は平安時代院成期と考えられている。<sup>②</sup> その頃は、札所の順序にも現行のものは若干の相違箇所が認められ、貴族達の観音信仰に対する関心の深さにもかかわらず、西国巡礼そのものが厳しい「修業的意義を帯びていたと推測され」、<sup>③</sup> 又、その事が「資格の獲得を意味し誇るべき経歴となった」<sup>④</sup> ことから、巡礼者の大半は寺門を中心とする僧侶や行者であったようである。この傾向は鎌倉時代も続き、室町時代になると、観音信仰の浸透・交通

条件の改善・経済の発展などの諸条件によって、その中末期には、地方武士や一部の一般民衆の間にも巡礼がみられるようになった。<sup>⑤</sup> この頃、坂東三十三所霊場（一二三四年以前）秩父三十三所霊場（四八八年以前）の成立や、東国人の盛んな巡礼熱などと関連して、所謂「西国」の名称が冠せられたようであり、又、現行の札所順序・巡礼体・巡礼歌の成立等現在実施されている西国三十三所巡礼の形態も確立したようである。<sup>⑥</sup> 地方霊場の成立は、その後も一層盛んとなり、十五世紀には洛中洛外三十三所、十六世紀になると奥州糠部郡三十三所・若城三十三所・最上三十三所等がみられ、これら地方霊場の成立は、西国三十三所を頂点とする観音霊場巡礼を飛躍的に拡大させた。<sup>⑦</sup> この傾向は江戸時代に入ると一層すすみ、新城氏の研究によるとその成立が元禄以前と推定されるもの十二件・享保以前九件・寛政以前十件・慶応以前十七件・その他不明二十三件があげられておりその盛況が窺える。前田卓氏

小谷 越前国における地西国 (一)

の西国三十三所の札所に納められている納札の数的研究によると、貞享・元禄期、宝暦・明和・安永期、そして文化・文政期の三期が特に盛んであったとされている。そして、幕末の減少期を経て、明治期に入ると徐々に回復してくる傾向がみられる。この様な西国三十三所巡礼の盛行や地方霊場の増加は、婦女子も含めて、より多数の人々の参加を促したが、一方、修行性や通過儀礼的性格が薄れ、レクリエーションや物見遊山の傾向が強くなっていった。

以上、西国三十三所霊場の発達を概観してきたが、越前国における巡礼や地方霊場は如何なる展開を示しているだろうか。現行の地方三十三所霊場のコースを網羅しているとされる中尾堯氏の研究によれば、三十三所観音霊場と具体的に記されているものに限っても、全国で六十九件を数えることができる。前述した新城氏の七十件に余る霊場とともに、地方霊場の普遍性を知る事ができるが、福井県・長崎県・鹿児島県・沖縄県の四県は

そのどれにも記されていない。遠く海を隔てた沖縄は別にして、鹿児島の場合は薩摩藩の閉鎖的な宗教政策が関係していると考えられる。又、長崎については、関東に比類する程の巡礼をだしていることが知られている。福井、特に越前については、浄土真宗の一神教的性格から「本山参詣以外の社寺への関心は一般的に稀薄である」ばかりでなく、「西国霊場などの他社寺の参詣を嫌ったように思える」として、これが、越前に地方霊場が存在しないことや西国三十三所の札所に納札が一枚も現存していない事の理由と推察されている。しかし、現在の西国巡礼の約四割は浄土真宗の信徒であるという事実を考えると、近世と現代における寺院の檀徒に対する統制力や檀徒の信仰心の差異を考慮にいれても、越前における西国三十三所霊場信仰の問題を再度検討してみる必要がある。

慥かに、越前の場合単純に寺院数だけでみると、浄土真宗の寺院の占める割合が他の諸地域に比べて大きい(明治十九

年内務省統計報告<sup>7)</sup>によると全国平均二六・七%・越前国六〇・一%)。しかし、浄土真宗が広く信仰されるようになる以前には、養老年間泰澄大師によってひらかれたとされる白山に対する信仰が篤く、(現在も白山神社が越前国全域に広く分布している)神仏習合思想により白山三所権現の本地仏として十一面観音(御前峰)・阿弥陀如来(大汝峰)・聖観音(別山)がそれぞれ広く信仰されていた。又、「惣ジテ此貞景ガ御代ニハ善根多被成ケリ洛陽清水寺ニ新観音堂ヲ建立シテ灯明田迄寄進シタリケルガ今ニ於テ都鄙参詣ノ輩ハ朝倉堂トゾ云合ケル」(三月四日義景先一乘ヲ御出有テ本郷龍興寺ニ一宿シ給五日糸崎寺ニ参詣シ給ハントテ坊中ニ寄宿シ給ケル且ク御休息ノ後観世音ニ御参詣有ケリ」(傍点は小谷)などから朝倉氏の並ならぬ観音信仰の篤さを知ることができる。

近世の檀家制度下における庶民と仏教との関係が、「必ずしも庶民が各宗の個別的な教学を理解し、その教理を信仰す

西国33ヶ所札所と越前国における地西国一覽

西国 番	西国33ヶ所札所			越前国地西国			今立地西国		池田地西国		福井地西国		慈母観音33札所		越の国観音33札所		武生地西国		大野地西国							
	寺院名	宗派	府県名本尊(観音)	所在地	寺社名	宗派本尊備	所在地	寺社名	所在地	管理者	仏像名	所在地	寺社名	所在地	観音名	所在地	寺社名	所在地	寺社名	所在地	寺社名					
1	那智山青岸渡寺	天台	和歌山如意輪	杖立邑	金堂	天台(十一面)●	文室	観音堂	月ヶ瀬	上島重平	観音	観音町	鎮徳寺	小山谷瑞源寺	万霊観音	金津	正瑞寺	吾妻	仇山寺	(市内)	洞雲寺					
2	紀三井山金剛宝寺	救世観音	"十一面	越知山	本堂	"十一面●	蓋谷	積善寺	敷田	区有	"	観喜院	矢野新	八代観音	上新庄	田中説教場	旭	観音堂	掛	洪泉寺						
3	風尾山粉河寺	"	"千手千眼	糸崎浦	糸崎寺	真言●	奥宮	御宮	稲荷	宇野塔子兵衛	金比羅	上之橋	福蔵院	桃園町	観音	安穩寺	安	市	月光寺	降						
4	横尾山施福寺	天台	大阪"	三国寺山	性海寺	"●	池泉	観音堂	"	大願寺	観音	勝見	良学院	乾新町	乾観音	中番	竜雲寺	大山	称名寺	深井						
5	紫雲山葛井寺	真言	"十一面千手千眼	三国出村	竜谷寺	"如意輪	池泉	連正寺	"	"	"	"	北観音	立矢通り	千年町	立矢観音	長畝山久保	受法寺	引接寺	本覚院	上荒井					
6	壺阪山南法華寺	"	"奈良千手千眼	下兵庫	大善寺	"十一面(1)	"	安泰寺	"	八幡社	不動	筏町	真照寺	下町元声田屋敷	豊島観音	志比市野々	大学院	楠窓	安	黒谷						
7	東光山竜蓋寺	"	"如意輪	畦畝村	観音堂	"(十面千手)●	五分市	文妙寺	市	市姫社	観音	天王別当	医王院	豊島中町東光寺	東光観音	二面	薬師堂	深草	龍泉寺	下舌						
8	豊山長谷寺	"	"十一面	金津談義所	惣持寺	真言	吉谷	興徳寺	分野	中辻才平	金比羅	油町	乘久寺	駅前だるま屋	だるま観音	社	村	観音堂	末広	中ばさみ	掛	円通庵				
9	興福寺南円堂	法相	"不空罽索	藤尾邑	龍澤寺	曹土仏	榎	尾	稲荷	梅田文八	観音	子安町	持宝寺	月見町花枝	花枝観音	牧ノ島	竜善寺	"	真照寺	(市内)	春日社					
10	明星山三聖寺	本山修験	京都千手	豊原村	豊原寺	天台十一面●	"	御宮	上荒谷	八幡社	薬師	土居之内	普観寺	花堂公会堂	花堂観音	鶉上野	永源寺	桜	龍門寺	高砂町	熊野社					
11	深雪山上醍醐寺	真言	"准胝	松岡	観音堂	真言如意輪●	"	高林寺	月ヶ瀬	上島重平	金比羅	上与力町	華応院	一本木町福井印刷	福印観音	春江	江西忠吉宅	"	大宝寺	明	信	月庵寺				
12	岩間山正法寺	"	"滋賀千手	平泉寺邑	平泉寺	天台(十一面)●	"	地蔵堂	寺島	広田佐太郎	地藏	鍵町	御嶽寺	和田八幡社	和田観音	岡	保	観音堂	泉	金蓮寺	"	徳蔵寺				
13	石光山石山寺	"	"如意輪	大野黒谷	佛性寺	真言十一面(2)	栗田部	金刀比羅	"	留吉	"	小田原	普賢院	佐枝中町	輝観音	西	藤	観音堂	正覚寺	善精院	泉	町	曹源寺			
14	長等山三井寺	天台	""	木ノ本	観音堂	"	"	山ノ寺	山田	橋本甚左衛門	観音	下与力町	大仙寺	幾久町通筋	幾久観音	松岡	安泰寺	北府	不動堂	下庄	白山堂					
15	新那智山観音寺	真言	京都十一面	東江邑	地藏院	真言十一面(3)	"	薬師堂	板垣	橋本嘉兵衛	観音	牧野島	長安寺	松本中町国道筋	国道観音	大	牧	隆広寺	浪花	善源寺	中野	白山神社				
16	音羽山清水寺	北法相	"千手	木田観音町	観音堂	"十一面●	"	地蔵堂	山田	原由太郎	地藏	石大仏	全龍寺	城ノ橋中町	北野観音	福井西国	石大仏	森	田	観音堂	"	"				
17	補陀落山六波羅密寺	真言	"十一面	山	村	"	"	十王堂	"	稲部善右衛門	"	彼	南	霊泉寺	手寄下町	手寄観音	下文	殊	受誓寺	老松	洞源寺	毘沙門裏道	金比羅			
18	紫雲山頂法寺	天台	"如意輪	神宮寺山	波着寺	"	"	栗生寺	"	八幡社	観音	中興服町	清源寺	浪花下町一乘寺	浪花観音	三	国	滝谷寺	高瀬	河灌堂	城	の下	等覚院			
19	靈山行願寺	"	"千手	横小路観音町	鎮徳寺	曹洞千手●	"	観音堂	"	龍	洞	龍	洞	寺	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	善報地藏	
20	西山善峰寺	"	"	小原町	普賢院	真言	"	二日市	観音堂	"	"	西山町	光照寺	呉服町通り	呉服観音	森	田	観音堂	"	"	"	"	"	"	"	
21	菩提山穴太寺	"	"聖	神明内	普観寺	"(十一面)●	栗田部	法音寺	寺谷	西光寺	"	三	橋	法興寺	三ツ橋法興寺跡	照手観音	鳴	鹿	酒井利雄宅	深草	地藏堂	日吉町	山王社			
22	補陀落山總持寺	真言	大阪千手	牧ノ島	長安寺	"十一面●	"	地蔵町	地蔵堂	"	"	山	町	隆松寺	乾新町霊泉寺	乾徳観音	福井山	白山神社	元阿	盛秀寺	"	"	職(河)			
23	応頂山勝尾寺	"	"十一面	飯塚邑	観音堂	真言	西	尾	白山宮	"	"	塩	町	隆松寺	乾新町霊泉寺	乾徳観音	福井山	白山神社	元阿	盛秀寺	"	"	職(河)			
24	紫雲山中山寺	"	"兵庫	江守村	盛福寺	天台律	新	在家	大日社	"	"	愛	宕	坂	蔵本院	花月新町	花月観音	木部高柳	八十島近宅	太田	地藏院	寺	町	大宝寺		
25	御嶽山清水寺	天台	"十一面千手	三十八社	泰澄寺	天台(十一面)●	岩本成願	内観音堂	水海	"	薬師	"	昌	教	院	花月新町清宝寺	西光観音	宝永中町	常福院	深草	金剛院	富	吉	町	観音堂	
26	法華山一乘寺	"	"聖	長泉寺	仲堂院	"( )●	"	外	"	"	"	"	波	著	寺	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
27	書写山円教寺	"	"六臂如意輪	府中川原町	仇山寺	"(千手)●	大	滝	兄	権	現	神宮寺下町	西念寺	足羽上町西念寺	足羽観音	徳	光	善	林	寺	曙	国分寺	泉	町	一乘庵	
28	成相山成相寺	真言	京都聖	今莊宿	洞覚寺	曹洞十一面(4)	"	"	兄	神	社	木田東町	自性院	和山出作町	出作観音	粟	中	山	白	導	寺	北	府	観	音	堂
29	青葉山松尾寺	"	"馬頭	横根村	横根寺	天台千手●	"	"	法	徳	寺	"	辻	普	門	院	赤	坂	東	雲	寺	北	府	観	音	堂
30	竹生島宝蔵寺	"	"滋賀千手千眼	朝日村	福通寺	真言●	"	"	安	楽	寺	"	清	閑	院	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
31	狭崎山長命寺	天台	"千手十一面	二階堂村	白山社	"(十一面)●	岩本御	観音堂	"	"	地	山	奥	通	安	寺	山	奥	通	安	寺	山	奥	通	安	寺
32	山観音正寺	"	"千手千眼	玉川浦岩屋	観音堂	"十一面●	"	老	正	円	寺	"	石	丸	別	家	弘	法	"	"	"	"	"	"	"	
33	谷汲山華蔵寺	"	"岐阜十一面	大谷寺村	大谷寺	天台(十一面)●	"	御	宮	観	音	宮	谷	区	有	観	音	山	奥	松	尾	寺	"	"	"	
番外	豊山法起院	真言	奈良徳道上人	延宝6年以降成立			安永年中成立		寛政12年頃成立			文化12年以前成立		昭和23年成立			昭和24年成立		妙法山くまの上市		成立年不明					
	華頂山元慶寺	天台	京都薬師如来	現在も6月上旬におこなわれている。			現在も春～夏におこなわれている。		現在も8月10日におこなわれている。			現在もおこなわれている。		現在も四万六千日にあたる日におこなわれている。			現在も6月28日前後におこなわれている。		上市 田辺方		戦前迄におこなわれていた					
	東光山菩提寺	真言	兵庫薬師瑠璃光	本尊( )は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)より			本尊( )は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)より		本尊( )は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)より			本尊( )は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)より		本尊( )は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)より			本尊( )は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)より		弘法大師御詠歌		( )は筆者					
				出典 「西国三十三ヶ所」平幡良雄著 札所研究会刊			出典 「西国三十三ヶ所」御詠歌 四国八十八ヶ所 歌・寒念仏諸和讃 (栗田部普光寺所蔵)		出典 「池田町史」			出典 「越前国名蹟考」		出典 「観音巡拝案内」 (福井市豊島 東光寺所蔵)			出典 「観音巡拝案内」 (福井市豊島 東光寺所蔵)		善光寺御詠歌		「地西国札所付 西国三十三箇所御詠歌」 (大野市日吉町奥之院所蔵)					
				備●は泰澄に関する伝承等のあるもの(「越前国名蹟考」)			備●は泰澄に関する伝承等のあるもの(「越前国名蹟考」)												引接寺							
				備○は「泰澄大師」(高鳴勝榮著)に伝承等のあるもの															深草 地藏堂							
				出典 「越前国名蹟考」															成立年不明		昭和25・6年迄おこなわれていた。					
																			出典 「西国三十三ヶ所御詠歌武生地西国霊場」(武生市横根山崎清太夫氏所蔵)							



ることを意味」せず「それらの信仰形態は純一な仏教的信仰でなく、複雑な民間信仰、固有信仰との結びつき」を示していることに留意するならば、近世越前における西国三十三所霊場に対する信仰も全国的傾向の中で把えることが可能ではないだろうか。本稿では、越前における地西国の存在とその信仰の実態を紹介したい。

### 三、越前国における地西国

次の表は越前国における西国三十三所霊場の存在を示したものである。

まず、江戸時代初期にその成立が予想される越前国地西国について考える。宗派別にみると、西国三十三所が、真言(17)・天台(14)・法相(2)・救世・粉河観音(2)・本山修験(1)の諸宗であるのに比べて、この地西国においては、真言(15)・天台(9)の2宗の他に曹洞宗が三ヶ寺含まれており、越前という地域的特色がみられる。又、信仰の対象である七観音については、西国三十三所が、千手観音(13)・十一面観音

(10)・如意輪観音(6)・聖観音(3)・不空羅索観音(1)・准胝観音(1)・馬頭観音(1)の諸観音であるのに比べて、地西国においては、十一面観音(20)・千手観音(6)・如意輪観音(2)などとなっており、十一面観音に対する信仰が約8割(2)を占めており西国三十三所の場合と大きな違いが認められる。これは、前述した白山信仰(十一面観音は白山御前峰の本地仏)を母体としているということを示している。その白山を開いたとされている泰澄についての伝承と関係を持つ寺院や仏像が、地西国札所の約8割(2)を占めていることも大きな特色である。

以上の点から、越前国地西国は単なる西国三十三所の模倣による地方版としてではなく、越前国独自の観音信仰をその基盤としていえることが出来る。

西国三十三所巡礼が盛行をみせたといわれる宝暦・明和・安永より文化・文政期には、今立地西国(安永)・池田地西国(寛政)・福井地西国(文化)がそれぞれ成立している。全国的な巡礼の高揚を小地域として確実にうけとめている様子を知る事ができる。今立地西国や池田地西国にみられる如く、観音に対する信仰だけでなく、地藏(今立・池田)金刀比羅(今・池)、秋葉山(今)、十王(今)、薬師(池)、弘法(池)、不動(池)等に対する信仰も含まれており、地域の人々の生々しい現世利益の信仰と密着していることが窺える。近世の民衆の現世利益的信仰の博物館の様相を示しており、定期的にそれらを巡拝することが、レクリエーション性を帯びた地域の年中行事であると共に、身辺にある多くの神仏に身の加護を祈念する機会であったと推察できる。(武生や大野の地西国もその成立年代は不明であるが、その内容から推察して同様の時期と考えられる。)

慈母観音三十三札所と越の国観音三十三札所が、震災からの復興を祈念し、死者の霊を弔うという目的で、昭和二十三年・二十四年に福井地震の罹災地全域にわたってつくられた。この事は、後述する様に近世に成立した地方霊場が現在も継承されているだけでなく、具体的な目

的をもって新設されている点で注目される。福井市の慈母観音三十三札所の所在  
地名観音や、越の国観音三十三札所が  
宗教法人的な奉讃会によって維持されて  
いるなどから、以前のものにはない近代  
性をみることが出来る。この事は地西国  
が地域の過去の信仰の姿を示しているだ  
けではなくて、現代社会の信仰として存  
在していることを示している。

1 四国八十八ヶ所霊場の地方霊場は小四国  
と言ひ、なかでも、小豆島などのように島  
を一巡するような形になっているものは島  
四国と言ふ。

2 後藤大用氏『修訂観世音菩薩の研究』(山喜房)

たなかしげひさ氏『観音像』(綜芸舎)

武田明氏『巡礼の民俗』(岩崎美術社)

〃『巡礼と遍路』(三省堂)

平幡良雄氏『西国三十三ヶ所』(札所研究会)

真野俊和氏『村落における神仏関係の

「巡礼」の項(『日本民俗学講座』3所収  
(朝倉書店)

3 速水侑氏前掲書二六五頁

4 新城常三氏前掲書四二二頁

5 新城常三氏前掲書四二四頁

6 新城常三氏前掲書四三五頁

7 速水侑氏前掲書三一五〜三二七頁

8 速水侑氏前掲書三二五〜三二八頁

9 新城常三氏前掲書八〇七〜八一二頁

10 前田卓氏前掲書七九頁

11 前田卓氏前掲書九四〜九五頁

12 中尾堯氏『古寺巡礼辞典』(東京堂出版)

13 前田卓氏前掲書一五四〜一五五頁

14 新城常三氏前掲書八八五頁九六四頁

15 前田卓氏前掲書一四九頁

16 前田卓氏前掲書一九八頁

17 『明治前期産業発達史資料』別冊三一〜二

18 山岸共氏『白山信仰と加賀馬場』(『白山・立山と北陸修験道』所収 名著出版)

四五〜四六頁

19 『朝倉始末記』(朝倉叢書)一一五頁

20 『朝倉始末記』(朝倉叢書)一四九頁

21 『足羽町史』一四〇頁

22 柏原祐泉氏『幕藩体制の成立と宗教の立

場—仏教』(『体系日本史叢書』18 宗教史、山川出版社)二九四〜二九五頁

23 河原哲郎氏『越前馬場平泉寺の歴史的

推移』(『白山・立山と北陸修験道』所収)

一三五頁(越前・若狭における泰澄伝説の

ひろがり) 高嶋勝栄氏『泰澄大師』七一

24 一五九頁(泰澄大師の遺跡)

『越前国名蹟考』一七〜一九頁に、國中三十三所観音廻札所として第一番杖立金堂から第三番大谷寺までの札所名と、それぞれ独自の御詠歌が記されている。例……一番杖立金堂、この世よりこかねの堂に参りつ、仏の御影おかむなりけり、(因みに、西国三十三所札所第一番青岸渡寿の御詠歌は、補陀洛や岸うつ波は三熊野の那智のお山にひびく滝つせ、である)